

はじめに

筑波大学山岳科学センター菅平高原実験所では、二〇〇九年八月より、長野県上田市を中心に新聞折り込み紙として「菅平生き物通信」を配布してきました。紙面は生物や自然についての紹介、解説、エッセー、雑記といろいろですが、今回、それらのうち昆虫を主人公にした記事を中心に再編集し、一冊にまとめました。書いた人たちはマニアックな虫好きたち、まさに「^{※1}蟲愛づる人の蟲がたり」です。

おおよそのテーマに沿って、七つの章に分けました。どの章、どの記事からお読みになってもかまいません。また、この本の主役である昆虫の紹介として新たに「プロローグ」を書き下ろしました。最後には「おまけ」の章もあります。

「蟲って、すごいなー」とか、「昆虫って面白いかも……」「昆虫の研究って楽しそう」などの感想をもっていただけなら幸いです。ぜひ、お楽しみください。

※1 堤中納言物語（平安時代）に「蟲愛づる姫君」という一編があります。「蟲」を好む姫君の物語ですが、この「蟲」と「虫」には違う意味合いがありました。「虫」は主にへびなどの爬虫類を指し、「蟲」は昆虫などの小さな動物に当てられてきました。ムシがいっぱいいるイメージです。その後、簡略化のために「蟲」も「虫」と書かれるようになりました。なお、昆虫の「昆」は「数が多い」という意味です。

あとがき

本書は、「菅平生き物通信」の記事から、昆虫に関わるものを中心にピックアップして編集されています。一〇年にわたって書き溜めた通信が、書籍として再編・発行され非常に嬉しい気持ちでいっぱいです。本書を手にとってくださった皆様、教職員や学生たちの昆虫を愛する気持ちや熱意が伝わりましたでしょうか。本書の表紙絵も、菅平高原で昆虫を学んだ藤田麻里さんが手がけました。昆虫類三二目を、丁寧に描いてあります。あなたはいくつつ分かるでしょうか？

「菅平生き物通信」は筑波大学山岳科学センター菅平高原実験所が、新聞販売店「東郷堂」（上田市）よりご厚意、ご協力をいただいで、長野県上田市と周辺地域住民むけに新聞折込発行している情報紙です。二〇〇九年の八月に創刊号が発行されて以来、年間七回から八回の発行を続けています。創刊当時の施設名称は「筑波大学菅平高原実験センター」でしたが、二〇一七年四月よ

り「筑波大学山岳科学センター菅平高原実験所」と名称を改めることとなりました。

なお、記事中の図・写真で提供者が記されていないものは、筆者自身によるものです。

これからも、「菅平生き物通信」の発行は継続していきます。植物や菌類などのさまざまな生き物、菅平高原の四季の様子、学生の活動など、本書には掲載されなかった記事がたくさんあります。「菅平生き物通信」を通じて、生き物や菅平高原の魅力をお伝えできれば幸いです。

最後に、本書の出版をお引き受けくださった筑波大学出版会に、心よりお礼を申し上げます。

（二〇一八年一二月）